

令和8年度

国見学園コミュニティ・スクールだより

～ 地域とともにある学校づくり ～

令和8年7月
国見町教育委員会教育総務課
☎ 585-2119

令和8年7月14日（火）、第2回国見学園コミュニティ・スクールを開催しました。

今回は、県北中2年生と地域・保護者の代表であるコミュニティ・スクール委員、さらに、小学校の先生も交えて、下のテーマで意見を出し合いました。

いじめをなくし、誰もが安心して生活できる学校・学級にするために
～ 自分にできることは何だろう ～

「いじめはない方がいい。」

でも、全国どの学校でも起こりうることであり、ここ、国見町においても例外ではありません。だからこそ、この話し合いは必要だと考え、実施しました。

いじめによって、一人として苦しむ子どもを生みたくない。みんなが安心して笑顔で学校生活を送る。これは、国見町のすべての児童生徒、保護者、そして町の人たちの願いだと思います。

しかし、SNSの普及などにより、5年前、10年前と子どもたちの生活様式が変わりました。それに伴い、いじめはいつそう見えにくくなり、いじめの状況も様変わりしています。もはや、いじめをなくすためには、学校だけでは難しい時代なのです。

だからこそ、小中学生、保護者、地域住民が一体となって本気で考え、いじめをなくしていかなければなりません。

今回は、「いじめはよくない」で終わるのではなく、「中学生としてできることは何だろう」「大人としてできることは何だろう」、それを自問自答し、本音で語り合う時間としました。

中学生と大人が
力を合わせて発表



グループでの熱い話し合い
中学生も大人も本気です。



グループの話し合いから...

いじめのきっかけは？

「いじり」「自己中心的な考え」「SNSでの悪口」「からかい」など、率直な意見が出されました。まさに、相手の人権を大切にする意識が欠如していることがきっかけになっています。



もし、いじめに気づいたら...

「止める」「声をかける」「見て見ぬふりをしない」などの意見が多く出ました。加えて、「大人のの人に相談する」という意見もありました。実際には、子ども自身が止めに入るには、かなりの勇気が必要です。そこは、大人の出番です。子どもたちの相談に真摯に向き合い、対応していかなければならないことを私たち大人は常に意識していることが大切であると感じたところです。

いじめをなくすために 自分ができること

いじめが起こらないようにするために

- 自分がされて嫌なことは相手にもしない。
- 一度立ち止まってから行動する。
- 一人一人の個性を大切にする。
- 相手の気持ちを考える。



友達がいじめられていると気づいたら

- 先生などの大人に相談する。SOSを出す。
- はやし立てない。
- いじめを止める。注意する。
- 困っている人がいたら声をかける。
- 見て見ぬふりをしない。

一人一人、いじめをなくすために、「自分ができること」を見つけました。

それを一人一人が行動に移せば、必ずいじめは少なくなってくる、そう期待しています。

私たち大人にもできることはあるはずです。子どもたちが発信したSOSをしっかり受け止め、一人一人の子どもたちの笑顔を守る、それが大人の役割だと思います。

中学生にインタビュー

Q: 今回、友達や大人のひとと話し合った感想を教えてください。

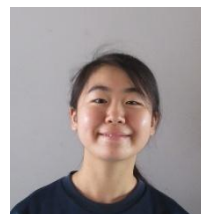
いじめは、日常のちょっとしたことから始まります。そのため、考えてから行動することが大切だと感じました。友達だけの話し合いだと、いじめをする側をどうするかの話が多いけど、大人のひとと一緒に話し合ったことで、いじめを見ている人やいじめられている人がどう対処すべきなのかなということも話題になり、とても良かったです。

Q: 今後はどうしていきたいですか。

私ができることとしてあげた「よく考えてから行動すること」を意識していきたいと思います。また、友達達の悩みを聴いてあげたいと思いました。

Q: 最後に一言。

今回は大人のひとと一緒に、子どもだけの話し合いより深まりがあったと思います。いじめという話題に限らず、定期的にこのような話し合いがあったらいいなと思いました。



八巻由芽さんにお聞きしました。

